

稚内高校

令和 8 年度シラバス

看護科 専攻科 1 年

目次

1 基礎看護学対象論	11 成人看護学各論 消化器	21 看護の統合と実践(災害看護)	31 社会福祉
2 基礎看護学方法論	12 成人看護学各論 外科	22 老年看護学臨地実習	32 老年看護学各論
3 地域・在宅看護論 対象論	13 成人看護学各論 運動器	23 自然科学	33 統計学
4 地域・在宅看護論 方法論	14 老年看護学総論	24 心理学	34 精神各論
5 地域・在宅看護論 演習	15 小児看護学総論	25 解剖生理学	35 体育
6 成人看護学総論	16 小児看護学各論	26 栄養学	36 社会学
7 成人看護学各論 血液	17 母性看護学総論	27 病理学Ⅰ	37 英語
8 成人看護学各論 腎・泌尿器	18 母性看護学各論	28 病理学Ⅱ	38 生命倫理
9 成人看護学各論 脳・神経	19 精神看護学総論	29 微生物学	
10 成人看護学各論 呼吸器	20 看護の統合と実践（医療安全）	30 薬理学	

[illegible]

教科	看護	学年	専1	科目	基礎看護学 方法論	単位数	2(45)	必修	
使用教科書	照林社 看護学生のためのレポート書き方教室								
使用副教材	系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ								
科目の目標	(1) 看護実践に向けた看護過程の展開、看護活動と看護問題解決過程について理解することができる。 (2) 看護実践における研究の意義について理解することができる。								
評価の観点	【知識・技術】 書かれている内容を正しく解釈し、看護過程の展開を実践できる。 【思考・判断・表現】 レポート課題などでわかりやすく、丁寧に対象を理解して書くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 看護過程や研究に関する基礎的な知識を身につけ、看護の役割を実践しようと主体的かつ協働的に取り組んでいる。								
		5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)			
①知識・技術	授業内容を超えた自主的学習が認められる。	授業内容をほぼ100%理解している。	到達目標は理解しているが、授業内容に不足がある。	到達目標に達していることが認められる。	到達目標に達していない。				
②思考・判断・表現	解決方法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	教科書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。				
③主体的に学習に取り組む態度	自ら進んで予習範囲を超えて調べている。	予習範囲を十分に理解し、他人に説明できる。	指示した予習範囲の理解にあいまいな点がある。	指示された範囲は予習するが、理解が不十分である。	指示された範囲は予習が不十分である。				
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度などから総合的に評価する。								
年間学習計画							評価の観点		
学期	月	時数	単元・主な学習内容				①	②	③
前期	7								
	8	2	1基礎看護学方法論概論…看護実践における方法論の位置づけ 2看護過程の意義…看護過程の目的と特徴				◎	◎	◎
	9	6	3看護過程の構成…情報収集・アセスメント・計画・実施・評価 4情報収集①…主観的情報 5情報収集②…情報源／観察・面接・測定 6アセスメントの基礎…アセスメントの視点と考え方 7アセスメント①…情報の整理と関連づけ				◎	◎	◎
後期	10	14	8アセスメント②…解釈・仮説設定 9アセスメント③…強み・問題点の抽出 10看護問題の理解…看護問題の定義と特徴 11看護問題の明確化…看護診断の考え方 12優先順位の設定…緊急度・重要度 13看護計画の基礎…看護計画立案の原則 14看護目標の設定…短期目標／長期目標 15看護計画立案…個別性を踏まえた計画				◎	◎	◎
	11	18	16看護実施の原則…安全／安楽／自立支援 17看護技術と方法論…技術選択の根拠 18看護の評価…評価の視点と方法 19計画修正…フィードバックと再計画 20看護過程と記録…看護記録の意義 21記録様式…SOAP・POS 22根拠に基づく看護…EBNの考え方 23研究と看護実践…看護研究の基礎的理解 24チーム医療…多職種連携と看護 25倫理と看護方法…倫理的配慮と判断 26事例演習①…看護過程の展開（情報収集～アセスメント）				◎	◎	◎
	12	4	27事例演習②…看護問題／計画立案 28事例演習③…実施・評価 29事例演習④…全体統合				◎	◎	◎
	1								
	2	1	後期末考査						
	3								
	合計	45							
学習方法・その他									
◎授業の受け方 ・看護の専門教科の土台となる大切な科目となるため、しっかりとノートを整理をして下さい。 ・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかり理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。									
◎その他 ・高校1～3年生までの学習を基盤に、さらに専門的な看護について学習を深めます。予習復習をしっかりとやりましょう。 対象の全体を捉えて看護の実践を図れるよう、実際に事例の展開を行い学習内容を深めていきます。									

教科	看護	学年	専1	科目	地域・在宅看護論	対象論	単位数	1(15)	必修
使用教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤								
使用副教材	なし								
科目の目標	(1) 社会的背景や歴史をふまえ、在宅看護論の必要性和在宅看護の役割について理解できる。 (2) 地域で療養する対象者の特性とニーズを理解する。								
評価の観点	【 知 識 ・ 技 術 】 療養者・家族のを主体とした看護に必要な生活の場や看護の在り方を考えられる。 【 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 】 地域や在宅における看護の対象の特徴を踏まえ、看護や他職種との連携の必要性が学習できている。 【 主体的に学習に取り組む態度 】 社会に応じた看護ニーズを理解し、専門職の役割を果たすための知識や技術を取得しようとしている。								
	①知識・技術	5(期待している以上である) 在宅療養者と家族の生活や看護の在り方の基本を理解し、それに関する知識を自ら身に付けることができる。	4(十分に満足できる) 在宅療養者と家族の生活や看護の基本を理解し知識を身に付けることができる。	3(やや努力を要する) 在宅療養者と家族の生活や看護の基本を理解し必要性を考えることができる。	2(努力を要する) 在宅療養者と家族の生活や看護の基本を理解することができる。	1(相当の努力を要する) 在宅療養者と家族の生活や看護の基本を理解できない。			
	②思考・判断・表現	在宅療養者と家族への支援について多様な課題について発見し、看護や他職種との連携を踏まえて解決することができる。	在宅療養者と家族への支援について多様な課題について、看護や多職種との連携を踏まえて考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について多様な課題について、看護や多職種との連携を踏まえて考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について多様な課題について、看護や多職種との連携を踏まえて考えることができる。	在宅療養者と家族への支援についての多様な課題に対し看護や多職種との連携について、考えることができない。			
	③主体的に学習に取り組む態度	在宅療養者と家族の看護ニーズについて自ら学び、専門職としての役割を果たすための知識や技術を取得するために主体的に考えることができる。	在宅療養者と家族の看護ニーズについて、専門職としての役割を果たすための知識や技術を取得するために主体的に考えることができる。	在宅療養者と家族の看護ニーズについて、専門職としての知識や技術を取得するために主体的に考えることができる。	在宅療養者と家族の看護ニーズについて、専門職としての知識や技術を取得するために主体的に考えることができる。	在宅療養者と家族の看護ニーズについて、専門職としての知識や技術を取得するために主体的に考えることができない。			
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度等から総合的に評価する。								
年間学習計画									
学期	月	時数	単元・主な学習内容				評価の観点		
前期	4	6	第1章 人々の暮らしと地域・在宅看護 ○人々の暮らしの理解 ①暮らしの理解（異なる暮らし、暮らしと健康） ○地域・在宅看護の役割 ①地域・在宅看護とは ②実践の場、対象、役割（ヘルスリテラシー）				◎	○	○
			第2章 暮らしの基盤として地域の理解 ○暮らしと地域 ①地域の定義、多様性（住民・文化の多様性） ○暮らしと地域を理解するための考え方 ①システム理論（システムとは、個人・家族システムと地域システムの関係） ②システム思考（事例の学習） ○地域包括ケアシステムと地域共生社会 ①地域包括ケアシステム（地域包括ケアシステムとは、構成要素、自助・互助・共助・公助） ②地域共生社会				◎	○	○
	5	8	第3章 地域・在宅看護の対象 ・対象者の特徴、家族について				◎	○	○
		1	前期期末考査				◎		
後期	10~12								
	1~3								
	合計	15							
学習方法・その他									
◎授業の受け方									
・在宅で療養している特徴を理解し、施設内看護と在宅看護の役割を理解していきます。 ・自立性、主体性およびQOLの向上がなぜ必要かをしっかりと考えながら、看護の役割を理解しましょう。 ・地域社会の状況にも目を向け、今後の看護の在り方や他職種との連携を考えましょう。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。									

教科	看護	学年	専 1	科目	地域・在宅看護論（方法論）	単位数	1（15）	必修																								
使用教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤、系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践																															
使用副教材	なし																															
科目の目標	（１）在宅看護に関する保健・医療・福祉の理解と連携の必要性や在宅ケアシステムについて理解できる。 （２）在宅看護における訪問看護の基本を理解する。																															
評価の観点	【 知 識 ・ 技 術 】 療養者・家族のを主体とした看護に必要な展開方を考えられる。 【 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 】 法規や各種サービスの特徴をもとに、対象に応じたケアを工夫してまとめられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地域・在宅看護に関連する社会資源をふまえ、保健・福祉・医療の機能や役割を考えることができる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解し展開するための知識と技術の根拠を理解することができる。</td><td>在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解し知識を身に付けることができる。</td><td>在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解し必要性を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解することができる。</td><td>在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解できない。</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>在宅療養者と家族への看護について、法規や各種サービスなどの社会資源を活用し解決する方法を理解することができる。</td><td>在宅療養者と家族への看護について、法規や各種サービスなどの社会資源を活用し、解決について考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への看護について、各種サービスを活用することについて考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への看護について、解決する必要性を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への看護について、必要性を考えることができない。</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>在宅療養者と家族への看護について自ら学び、多職種と連携・協働しながら保健・医療・福祉の機能を具体策を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への看護について自ら学び、多職種との連携・協働しながら保健・医療・福祉の機能を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への看護について、多職種との連携から保健・医療・福祉の機能を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への看護において、保健・医療・福祉の機能を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への看護において、保健・医療・福祉の機能を考えることができない。</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解し展開するための知識と技術の根拠を理解することができる。	在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解し知識を身に付けることができる。	在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解し必要性を考えることができる。	在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解することができる。	在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解できない。	②思考・判断・表現	在宅療養者と家族への看護について、法規や各種サービスなどの社会資源を活用し解決する方法を理解することができる。	在宅療養者と家族への看護について、法規や各種サービスなどの社会資源を活用し、解決について考えることができる。	在宅療養者と家族への看護について、各種サービスを活用することについて考えることができる。	在宅療養者と家族への看護について、解決する必要性を考えることができる。	在宅療養者と家族への看護について、必要性を考えることができない。	③主体的に学習に取り組む態度	在宅療養者と家族への看護について自ら学び、多職種と連携・協働しながら保健・医療・福祉の機能を具体策を考えることができる。	在宅療養者と家族への看護について自ら学び、多職種との連携・協働しながら保健・医療・福祉の機能を考えることができる。	在宅療養者と家族への看護について、多職種との連携から保健・医療・福祉の機能を考えることができる。	在宅療養者と家族への看護において、保健・医療・福祉の機能を考えることができる。	在宅療養者と家族への看護において、保健・医療・福祉の機能を考えることができない。
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解し展開するための知識と技術の根拠を理解することができる。	在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解し知識を身に付けることができる。	在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解し必要性を考えることができる。	在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解することができる。	在宅療養者と家族の生活に応じた看護を理解できない。																											
②思考・判断・表現	在宅療養者と家族への看護について、法規や各種サービスなどの社会資源を活用し解決する方法を理解することができる。	在宅療養者と家族への看護について、法規や各種サービスなどの社会資源を活用し、解決について考えることができる。	在宅療養者と家族への看護について、各種サービスを活用することについて考えることができる。	在宅療養者と家族への看護について、解決する必要性を考えることができる。	在宅療養者と家族への看護について、必要性を考えることができない。																											
③主体的に学習に取り組む態度	在宅療養者と家族への看護について自ら学び、多職種と連携・協働しながら保健・医療・福祉の機能を具体策を考えることができる。	在宅療養者と家族への看護について自ら学び、多職種との連携・協働しながら保健・医療・福祉の機能を考えることができる。	在宅療養者と家族への看護について、多職種との連携から保健・医療・福祉の機能を考えることができる。	在宅療養者と家族への看護において、保健・医療・福祉の機能を考えることができる。	在宅療養者と家族への看護において、保健・医療・福祉の機能を考えることができない。																											
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・学習態度等から総合的に評価する。																															
年間学習計画						評価の観点																										
学期	月	時数	単元・主な学習内容			①	②	③																								
前期	4～7	14	第5章 地域・在宅看護実践の場と連携 ○主な地域・在宅看護の実践の場 ・住まい、通所サービス、短期入所サービス、通所・短期入所・訪問サービス、施設サービスへ提供される看護について ○前期期末考査 ・外来看護、入院看護、療養の場の移行時の看護 ○地域・在宅看護における多職種連携 第6章 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 ○介護保険・医療保険制度 ○前期期末考査 ○訪問看護制度 第1章 地域・在宅看護の展開（教科書：地域・在宅看護の実践） ○地域・在宅看護における看護過程 ○地域・在宅看護過程の展開方法			◎	○	○																								
		1	○考査			◎																										
	8～9																															
後期	10～12																															
	1～3																															
合計		15																														
学習方法・その他																																
◎授業の受け方 ・サービスの法的根拠と内容について、整理して学習していきましょう。 ・対象に合わせたサービスや看護について、その機能や役割を理解しましょう。 ・訪問看護の看護展開について、その特徴をしっかりと理解していきましょう。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																

教科	看護	学年	専1	科目	地域・在宅看護論（演習）		単位数	1(30)	必修																								
使用教科書	系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践																																
使用副教材	なし																																
科目の目標	（１）地域・在宅看護の展開に必要な技術や看護師の役割が理解できる。 （２）療養者・家族に必要な技術指導や療養生活への支援について理解できる。																																
評価の観点	【 知 識 ・ 技 術 】 療養生活を継続するための基本的な看護技術や対象理解の必要性が考えられる。 【 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 】 各専門職種の特徴や機能をふまえ工夫してまとめられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 保健・福祉・医療の連携や専門職としての役割を理解し、看護の継続に向けた方法を考えられる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護の必要性を理解し、基本的な看護技術に関する知識と技術を身に付けることができる。</td><td>在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護の必要性を理解し、看護技術に関する知識を身に付けることができる。</td><td>在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護を理解し、基本的な看護技術を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護の基本を理解することができる。</td><td>在宅療養者と家族の生活・治療・状況に応じた看護の基本を理解できない。</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>在宅療養者と家族への支援についての多様な課題を発見し、各専門職種の特徴や機能を踏まえ工夫し・解決することができる。</td><td>在宅療養者と家族への支援についての課題を考え、各専門職種の特徴や機能を踏まえ解決方法を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への支援における課題に対して、各専門職種の特徴や機能を踏まえて考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への支援について、各専門職種の特徴や機能を活用する必要性を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への支援について、各専門職種の特徴や機能を活用する必要性を考えるとできない。</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>在宅療養者と家族への支援について自ら学び、多職種と連携・協働しながら生活の質の向上を目指し、主体的に具体策を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への支援について自ら学び、多職種との連携・協働しながら生活の質の向上を目指し、主体的に具体策を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族へ支援において、生活の質の向上を目指し具体策を考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への支援について、生活の質の向上について考えることができる。</td><td>在宅療養者と家族への支援について、生活の質の向上について考えることができない。</td></tr></table>										5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護の必要性を理解し、基本的な看護技術に関する知識と技術を身に付けることができる。	在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護の必要性を理解し、看護技術に関する知識を身に付けることができる。	在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護を理解し、基本的な看護技術を考えることができる。	在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護の基本を理解することができる。	在宅療養者と家族の生活・治療・状況に応じた看護の基本を理解できない。	②思考・判断・表現	在宅療養者と家族への支援についての多様な課題を発見し、各専門職種の特徴や機能を踏まえ工夫し・解決することができる。	在宅療養者と家族への支援についての課題を考え、各専門職種の特徴や機能を踏まえ解決方法を考えることができる。	在宅療養者と家族への支援における課題に対して、各専門職種の特徴や機能を踏まえて考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について、各専門職種の特徴や機能を活用する必要性を考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について、各専門職種の特徴や機能を活用する必要性を考えるとできない。	③主体的に学習に取り組む態度	在宅療養者と家族への支援について自ら学び、多職種と連携・協働しながら生活の質の向上を目指し、主体的に具体策を考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について自ら学び、多職種との連携・協働しながら生活の質の向上を目指し、主体的に具体策を考えることができる。	在宅療養者と家族へ支援において、生活の質の向上を目指し具体策を考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について、生活の質の向上について考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について、生活の質の向上について考えることができない。
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																												
①知識・技術	在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護の必要性を理解し、基本的な看護技術に関する知識と技術を身に付けることができる。	在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護の必要性を理解し、看護技術に関する知識を身に付けることができる。	在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護を理解し、基本的な看護技術を考えることができる。	在宅療養者と家族の生活・状況に応じた看護の基本を理解することができる。	在宅療養者と家族の生活・治療・状況に応じた看護の基本を理解できない。																												
②思考・判断・表現	在宅療養者と家族への支援についての多様な課題を発見し、各専門職種の特徴や機能を踏まえ工夫し・解決することができる。	在宅療養者と家族への支援についての課題を考え、各専門職種の特徴や機能を踏まえ解決方法を考えることができる。	在宅療養者と家族への支援における課題に対して、各専門職種の特徴や機能を踏まえて考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について、各専門職種の特徴や機能を活用する必要性を考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について、各専門職種の特徴や機能を活用する必要性を考えるとできない。																												
③主体的に学習に取り組む態度	在宅療養者と家族への支援について自ら学び、多職種と連携・協働しながら生活の質の向上を目指し、主体的に具体策を考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について自ら学び、多職種との連携・協働しながら生活の質の向上を目指し、主体的に具体策を考えることができる。	在宅療養者と家族へ支援において、生活の質の向上を目指し具体策を考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について、生活の質の向上について考えることができる。	在宅療養者と家族への支援について、生活の質の向上について考えることができない。																												
評価の算出	定期考査・小テスト・提出物・授業態度等により総合的に評価する。																																
年間学習計画																																	
学期	月	時数	単元・主な学習内容						評価の観点																								
前期	4～6								①	②	③																						
	7～9	4	第2章 暮らしを支える看護技術 ○暮らしの場で看護をするための心構え ○地域・在宅看護における家族を支える看護 ○地域・在宅看護における安全を守る看護 ・取り巻くリスク、リスクマネジメント、地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント						○	◎	○																						
後期	10～12	15	○地域における暮らしを支える看護実践 ・療養環境調整、食生活（経鼻経管・胃瘻、在宅中心静脈栄養法）、排泄（尿道留置カテーテル） 清潔（援助に共通する基本事項）、呼吸（在宅酸素療法、非侵襲的・気管切開下陽圧換気、在宅人工呼吸療法）、褥瘡、スキンテア、与薬						◎	○	○																						
	1～3	10	○考査						◎																								
		1	第4章 地域・在宅看護の事例展開																														
	合計	30																															
学習方法・その他																																	
◎授業の受け方																																	
- 在宅看護の継続に向けた各専門職の特徴や流れを整理して学習していきましょう。 - 日常生活や医療処置など、在宅看護の安全に対する基本的技術を理解しましょう。 - 対象の権利についてしっかり理解していきましょう。 - わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																	

教科	看護	学年	専1	科目	成人看護学（総論）	単位数	1 (30)	必修																								
使用教科書	成人看護学総論（医学書院）																															
使用副教材	なし																															
科目の目標	成人の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、個人によって異なるライフスタイルや生活習慣が健康に与える影響を理解した上で、健康づくり（ヘルスプロモーション）や機能障害の看護に関わる基本的な知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を健康課題のある人に応じて適切に活用できるようにすること																															
評価の観点	【知識・技術】（1）成人看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】（2）成人看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】（3）成人看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、成人の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>成人の身体的・精神的・社会的特徴から生活形態の変化を理解し、健康の回復や保持増進に関わる技術を身につけることができる。</td><td>成人の身体的・精神的・社会的特徴から生活形態の変化を理解し、健康の回復や保持増進に関わる技術を身につけることができる。</td><td>成人の身体的・精神的・社会的特徴から生活形態の変化を理解することができる。</td><td>成人期の主要な特徴を理解することができる。</td><td>授業に参加しない/課題提出しない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>看護の職業倫理を踏まえ、患者の意志決定や行動変容を促す援助を考察できる。また、仕事や家庭、地域社会の役割を知り、主体的にヘルスプロモーションが促進できるよう援助を考える事ができる。</td><td>看護の職業倫理を踏まえ、患者の意志決定や行動変容を促し、セルフケア能力を獲得できるよう援助を考察できる。また実施する援助の根拠を明確にできる。</td><td>看護の職業倫理を踏まえ、患者の意志決定や行動変容を促し、セルフケア能力を獲得できるよう援助を考察できる。</td><td>看護の職業倫理を踏まえ、患者がセルフケア能力を向上させる援助を考察できる。</td><td>看護の職業倫理を理解できない。</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れ自己の考えを深めより良い学びにつなげる事ができる。</td><td>予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れる事ができる。</td><td>予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。</td><td>授業を受けて、事後学習することができる</td><td>授業に参加しない/課題提出しない</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	成人の身体的・精神的・社会的特徴から生活形態の変化を理解し、健康の回復や保持増進に関わる技術を身につけることができる。	成人の身体的・精神的・社会的特徴から生活形態の変化を理解し、健康の回復や保持増進に関わる技術を身につけることができる。	成人の身体的・精神的・社会的特徴から生活形態の変化を理解することができる。	成人期の主要な特徴を理解することができる。	授業に参加しない/課題提出しない	②思考・判断・表現	看護の職業倫理を踏まえ、患者の意志決定や行動変容を促す援助を考察できる。また、仕事や家庭、地域社会の役割を知り、主体的にヘルスプロモーションが促進できるよう援助を考える事ができる。	看護の職業倫理を踏まえ、患者の意志決定や行動変容を促し、セルフケア能力を獲得できるよう援助を考察できる。また実施する援助の根拠を明確にできる。	看護の職業倫理を踏まえ、患者の意志決定や行動変容を促し、セルフケア能力を獲得できるよう援助を考察できる。	看護の職業倫理を踏まえ、患者がセルフケア能力を向上させる援助を考察できる。	看護の職業倫理を理解できない。	③主体的に学習に取り組む態度	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れ自己の考えを深めより良い学びにつなげる事ができる。	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れる事ができる。	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。	授業を受けて、事後学習することができる	授業に参加しない/課題提出しない
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	成人の身体的・精神的・社会的特徴から生活形態の変化を理解し、健康の回復や保持増進に関わる技術を身につけることができる。	成人の身体的・精神的・社会的特徴から生活形態の変化を理解し、健康の回復や保持増進に関わる技術を身につけることができる。	成人の身体的・精神的・社会的特徴から生活形態の変化を理解することができる。	成人期の主要な特徴を理解することができる。	授業に参加しない/課題提出しない																											
②思考・判断・表現	看護の職業倫理を踏まえ、患者の意志決定や行動変容を促す援助を考察できる。また、仕事や家庭、地域社会の役割を知り、主体的にヘルスプロモーションが促進できるよう援助を考える事ができる。	看護の職業倫理を踏まえ、患者の意志決定や行動変容を促し、セルフケア能力を獲得できるよう援助を考察できる。また実施する援助の根拠を明確にできる。	看護の職業倫理を踏まえ、患者の意志決定や行動変容を促し、セルフケア能力を獲得できるよう援助を考察できる。	看護の職業倫理を踏まえ、患者がセルフケア能力を向上させる援助を考察できる。	看護の職業倫理を理解できない。																											
③主体的に学習に取り組む態度	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れ自己の考えを深めより良い学びにつなげる事ができる。	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れる事ができる。	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。	授業を受けて、事後学習することができる	授業に参加しない/課題提出しない																											
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度などから総合的に評価する。																															
年間学習計画						評価の観点																										
学期	月	時数	単元・主な学習内容			①	②	③																								
前期	4	6	①対象の理解／位置づけ②障害発達の特徴、発達段階・課題／ライフサイクル③健康と疾病の連続性／疾病構造④生活習慣病の概念／予防			◎	○	○																								
	5	2	⑤ストレス反応／コーピング⑥急性期における身体反応			◎	○	○																								
	6	4	⑦全身状態の変化／観察			◎	○	○																								
	7	2	⑧慢性期看護の特徴⑨慢性期の生活支援、セルフケア支援			◎		○																								
	8 9	2	前期考査 ⑩感染予防／標準予防策			◎ ○	◎	○																								
後期	10	5	⑪社会資源／医療・福祉制度			○	○	○																								
	11	1	⑫チーム医療／多職種連携 ⑬家族の役割／支援			○	○	◎																								
	12	4	⑭退院支援／退院調整・意思決定支援／インフォームド・コンセント			○	◎	○																								
	1 2 3	3	⑮倫理と成人看護／倫理的課題⑯新たな治療法、先端医療			○	◎	○																								
	合計	30	後期期末考査			◎																										
学習方法・その他																																
◎授業の受け方																																
・専門用語が多く出てきますので、言葉を理解しながら学習を行うことが大切です。																																
・学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。																																
・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																
◎その他																																
・高校2・3年生の成人・老年看護学からつながる授業なので、今までの復習をしっかりと行って下さい。																																
・国家試験の出題基準に準じた授業を行います。																																

教科	看護	学年	専1	科目	成人看護学各論	血液	単位数		必修																								
使用教科書	系統看護学講座専門6 成人看護学2～15																																
使用副教材																																	
科目の目標	成人の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、個人によって異なるライフスタイルや生活習慣が健康に与える影響を理解した上で、機能障害の看護に関わる基本的な知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を健康課題のある人に応じて適切に活用できる																																
評価の観点	【知識・技術】 健康や障害の程度に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 健康や障害の程度に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康や障害の程度に応じた看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにはやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協動的に取り組むことができる</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない</td></tr></table>										5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない	②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにはやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない	③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																												
①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない																												
②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにはやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない																												
③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない																												
評価の算出																																	
年間学習計画									評価の観点																								
学期	月	時数	単元・主な学習内容						①	②	③																						
前期	4	2	血液・造血器の看護を学ぶにあたって 血液の生理と造血のしくみ・DIC・免疫応答・血液型 白血球系の異常・造血器腫瘍・急性白血病・悪性リンパ腫・造血幹細胞移植 血液・造血器疾患の事例学習（急性白血病看護）						◎	○	○																						
	5	4	貧血・リンパ節腫脹・出血傾向・骨髄穿刺・骨髄生検 血液・造血器疾患の事例学習（悪性リンパ腫看護）						◎	○	○																						
	6	4	輸血療法						○	◎	◎																						
	7	1	考査						◎																								
	8 9																																
後期	10 11 12																																
	1 2 3																																
	合計	11																															
	学習方法・その他																																
◎授業の受け方																																	
・解剖生理学が基本となりますので、しっかり復習しておきましょう。 ・疾患・検査・看護の学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・授業資料を交えて授業展開する中で、事例検討を中心に実践に活用できる力を身につけましょう。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																	
◎その他																																	
・高校2・3年生の成人・老年看護学からつながる授業なので、今までの復習をしっかりと行って下さい。 ・国家試験の出題基準に準じた内容については自己学習の習慣を身につけて取り組むようにしてください。																																	

教科	看護	学年	専1	科目	成人看護学各論 腎・泌尿	単位数		必修																								
使用教科書	系統看護学講座専門6 成人看護学2～15																															
使用副教材																																
科目の目標	成人の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、個人によって異なるライフスタイルや生活習慣が健康に与える影響を理解した上で、機能障害の看護に関わる基本的な知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を健康課題のある人に応じて適切に活用できる																															
評価の観点	【知識・技術】 健康や障害の程度に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 健康や障害の程度に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康や障害の程度に応じた看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足がありながらも、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協動的に取り組むことができる</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない	②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足がありながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない	③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない																											
②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足がありながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない																											
③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない																											
評価の算出																																
年間学習計画						評価の観点																										
学期	月	時数	単元・主な学習内容			①	②	③																								
前期	4	7	体液の量を維持するはたらき・酸・塩基平衡としてののはたらき・内分泌としてののはたらき・男性生殖器官の構造と機能・前立腺・尿管・膀胱・尿道の構造と機能・蓄尿と排尿（支配神経） 症状とその病態生理-循環器系と腎疾患・症状とその病態生理-血液の異常・症状とその病態生理-尿毒症 腎・尿路および生殖器の疼痛・発熱			◎	◎	◎																								
	5	2	腎不全とAKI・CKD・ネフローゼ症候群・糸球体疾患・全身性疾患による腎障害・尿路の疾患・前立腺疾患（肥大型・がん）の看護・膀胱鏡検査を受ける患者の看護・透析を受ける患者の看護			◎	◎	○																								
	6																															
	7 8 9	1	短期集中型査			◎	◎	○																								
後期	10 11 12																															
	1 2 3 合計	10																														
	学習方法・その他																															
	◎授業の受け方																															
・解剖生理学が基本となりますので、しっかり復習しておきましょう。 ・疾患・検査・看護の学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・プリントにないことも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																
◎その他																																
・高校2・3年生の成人・老年看護学からつながる授業なので、今までの復習をしっかりと行って下さい。 ・国家試験の出題基準に準じた授業を行います。																																

教科	看護	学年	専1	科目	成人看護学各論 脳・神経	単位数	3(10)	必修																								
使用教科書	系統看護学講座専門6 成人看護学2～15																															
使用副教材																																
科目の目標	成人の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、個人によって異なるライフスタイルや生活習慣が健康に与える影響を理解した上で、機能障害の看護に関わる基本的な知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を健康課題のある人に応じて適切に活用できる																															
評価の観点	【知識・技術】 健康や障害の程度に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 健康や障害の程度に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康や障害の程度に応じた看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足でありながらも、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協動的に取り組むことができる</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない	②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足でありながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない	③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない																											
②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足でありながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない																											
③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協動的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない																											
評価の算出																																
年間学習計画						評価の観点																										
学期	月	時数	単元・主な学習内容			①	②	③																								
前期	4																															
	5																															
	6																															
	7																															
	8																															
後期	10	2	【脳・神経の看護を学ぶにあたって】 1. 健康寿命の延伸を図る日本の政策 2. 生命に直結するのはなぜか 3. 生命の危機を早期発見する必要があるが、どこを観察するのか 4. 社会性を失う障害 5. 失語症 6. 情報の処理とホメオスタシス 7. 血液脳関門 8. 反射路- 膝蓋腱反射 9. 特殊感覚の伝導路(12神経) 10. 感覚性(上行性)・運動性(下行性)伝導路			◎	◎	○																								
	11	5	【国試対策】 機能局在・頭蓋内圧亢進症状・GCS, 視床下部、小脳/間脳/脳幹の機能・自律神経支配・髄膜刺激症状脳出血とクモ膜下出血の成因、急性硬膜外血腫の急性期の看護、硬膜下血腫と硬膜外血腫の違い、片麻痺の入浴時・ROM訓練時の看護			◎	◎	○																								
	12	2	【疾患の理解と看護】 脳梗塞・下垂体腫瘍・パーキンソン病・認知症・中大脳動脈領域の脳梗塞状況設定問題・Guillain-Barré〈ギラン・バレー〉症候群・重症筋無力症・デュシェンヌ型筋ジストロフィー・多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症 ①けいれんをおこす患者の看護 ②下垂体腫瘍(下垂体前葉から発生する腫瘍)・入院から手術までのアセスメント～看護活動・経蝶形骨洞法による下垂体腫瘍摘出手術後のアセスメント～看護活動 ③頭蓋内圧亢進症状のある患者(脳挫傷による脳浮腫)の看護			○	◎	◎																								
	1																															
	2																															
3																																
合計	9																															
学習方法・その他																																
◎授業の受け方																																
・解剖生理学が基本となりますので、しっかり復習しておきましょう。																																
・疾患・検査・看護の学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。																																
・プリントにないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。																																
・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																
◎その他																																
・高校2・3年生の成人・老年看護学からつながる授業なので、今までの復習をしっかりと行って下さい。																																
・国家試験の出題基準に準じた授業を行います。																																

教科	看護	学年	専1	科目	成人看護学各論 呼吸器	単位数	3(90)	必修																								
使用教科書	系統看護学講座専門6 成人看護学2～15																															
使用副教材																																
科目の目標	成人の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、個人によって異なるライフスタイルや生活習慣が健康に与える影響を理解した上で、機能障害の看護に関わる基本的な知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を健康課題のある人に応じて適切に活用できる																															
評価の観点	【知識・技術】 健康や障害の程度に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることが出来る。 【思考・判断・表現】 健康や障害の程度に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出すことが出来る。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康や障害の程度に応じた看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る</td><td>各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る</td><td>各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る</td><td>各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る</td><td>各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足があるが、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協働的に取り組むことが出来る</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことが出来る</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことが出来る</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない	②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足があるが、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない	③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協働的に取り組むことが出来る	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことが出来る	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことが出来る	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない																											
②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足があるが、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない																											
③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協働的に取り組むことが出来る	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことが出来る	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことが出来る	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない																											
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度などから総合的に評価する。																															
年間学習計画						評価の観点																										
学期	月	時数	単元・主な学習内容			①	②	③																								
前期	4	5	第3章 症状とその病態生理B他覚症状①チアノーゼ・中枢性、末梢性チアノーゼ④呼吸の異常・呼吸運動の異常・呼吸数と深さの異常・呼吸のリズムの異常・呼吸音の異常 第4章 検査と治療・処置 ⑧ 呼吸機能検査 B検査1 換気機能検査・肺活量、1秒率、ピークフロー、フローボリューム曲線、肺気量分画			◎	◎	◎																								
	5	6	第6章 患者の看護 ①COPD患者の経過と看護 ①肺炎患者の看護 第7章 事例による看護課程の展開 COPD、肺炎のアセスメント、肺炎、COPD患者の事例を用いて			◎	◎	◎																								
	7	1	考査			◎																										
	合計	12																														
後期																																
学習方法・その他																																
◎授業の受け方																																
・解剖生理学が基本となりますので、しっかり復習しておきましょう。 ・疾患・検査・看護の学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・プリントにないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																
◎その他																																
・高校2・3年生の成人・老年看護学からつながる授業なので、今までの復習をしっかりと行って下さい。 ・国家試験の出題基準に準じた授業を行います。																																

教科	看護	学年	専1	科目	成人看護学各論 消化器	単位数	3(90)	必修		
使用教科書	系統看護学講座専門6 成人看護学2～15 医学書院 成人看護学5 消化器									
使用副教材										
科目の目標	成人の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、個人によって異なるライフスタイルや生活習慣が健康に与える影響を理解した上で、機能障害の看護に関わる基本的な知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を健康課題のある人に応じて適切に活用できる									
評価の観点	【知識・技術】 健康や障害の程度に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 健康や障害の程度に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康や障害の程度に応じた看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。									
		5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)				
①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない					
②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない					
③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協働的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すものの、基本的なものは取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことに不足もあり、取り組みもできない					
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度などから総合的に評価する。									
年間学習計画								評価の観点		
学期	月	時数	単元・主な学習内容					①	②	③
前期	4	5	第2章 消化器の構造と機能 A食道の構造と機能～G臓臓の構造と機能					○	◎	◎
	5	6	第7章 事例を用いた看護展開の方法 A 胃がんで手術を受ける患者の看護 (老年実習で実際に使用する記録用紙を用いてアセスメント、SOAPの記載を練習)					◎	◎	○
	7	1	考査							
	合計	12								
後期										
学習方法・その他										
◎授業の受け方										
・解剖生理学が基本となりますので、しっかり復習しておきましょう。 ・疾患・検査・看護の学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。 ・プリントにないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。										
◎その他										
・高校2・3年生の成人・老年看護学からつながる授業なので、今までの復習をしっかりと行って下さい。 ・国家試験の出題基準に準じた授業を行います。										

教科	看護	学年	専1	科目	成人看護学各論 外科	単位数	3 (90)	必修																								
使用教科書	系統看護学講座専門6 成人看護学2～15																															
使用副教材																																
科目の目標	成人の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、個人によって異なるライフスタイルや生活習慣が健康に与える影響を理解した上で、機能障害の看護に関わる基本的な知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を健康課題のある人に応じて適切に活用できる																															
評価の観点	【知識・技術】 健康や障害の程度に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 健康や障害の程度に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康や障害の程度に応じた看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出しながらも、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協働的に取り組むことができる</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない	②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出しながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない	③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協働的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない																											
②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出しながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない																											
③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協働的に取り組むことができる	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない																											
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度などから総合的に評価する。																															
年間学習計画								評価の観点																								
学期	月	時数	単元・主な学習内容					①	②	③																						
前期	4																															
	5																															
	6																															
後期	7																															
	合計																															
	10	3	第1章 外科医療の基礎 B 手術侵襲と生体の反応①手術侵襲（ホメオスタシス）②侵襲に対する生体反応2，生体反応の推移 ③サイトカインによる生体調整機構1，サイトカイン2，生体反応におけるサイトカインの役割 3，全身性炎症反応症候群C 炎症①急性炎症と慢性炎症					○	○	◎																						
	11	7	第1章 外科医療の基礎 E 創傷治癒①創傷治癒過程（炎症期～成熟期）②創傷の治癒形式③創傷治癒に影響する因子 ④創傷管理法 Ex) Albについて					○	◎	◎																						
	12	7	第3章 外科治療を支える分野 A 麻酔法①麻酔②麻酔の種類③術前・術中・術後の管理 C体液管理 ①体液の構成と調整 第9章 手術後患者の看護 ⑦ドレーンの管理 B術後合併症の発生機序1，～9，					○	○	◎																						
後期	2	3	第9章 手術後患者の看護 B術後合併症の発生機序1，～9， 後期考査					○	○	◎																						
	合計	20																														
学習方法・その他																																
◎授業の受け方 ・解剖生理学が基本となりますので、しっかり復習しておきましょう。 ・疾患・検査・看護の学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりとして理解するようにしましょう。 ・プリントにないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ◎その他 ・高校2・3年生の成人・老年看護学からつながる授業なので、今までの復習をしっかりと行って下さい。 ・国家試験の出題基準に準じた授業を行います。																																

教科	看護	学年	専1	科目	成人看護学各論 運動器	単位数	3(90)	必修																								
使用教科書	系統看護学講座専門6 成人看護学2～15																															
使用副教材																																
科目の目標	成人の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、個人によって異なるライフスタイルや生活習慣が健康に与える影響を理解した上で、機能障害の看護に関わる基本的な知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を健康課題のある人に応じて適切に活用できる																															
評価の観点	【知識・技術】 健康や障害の程度に応じた看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることが出来る。 【思考・判断・表現】 健康や障害の程度に応じた看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出すことが出来る。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康や障害の程度に応じた看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る</td><td>各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る</td><td>各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る</td><td>各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る</td><td>各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる</td><td>各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協働的に取り組むことが出来る</td><td>復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことが出来る</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことが出来る</td><td>患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない	②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない	③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協働的に取り組むことが出来る	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことが出来る	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことが出来る	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	各期における機能障害の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害の適切な理解にはやや不足があるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る	各期における機能障害について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない																											
②思考・判断・表現	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出し、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことにやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる	各期における機能障害の程度に応じた看護について問題点を見出すことに不足あり、援助について発表することができない																											
③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことが出来る	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、協働的に取り組むことが出来る	復習に取り組み、患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指し、取り組むことが出来る	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことが出来る	患者の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない																											
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度などから総合的に評価する。																															
年間学習計画									評価の観点																							
学期	月	時数	単元・主な学習内容						①	②	③																					
前期	4 5 6 7 8																															
	9	6	第2章 運動器の構造と機能 骨の構造、組成、発育、再生、骨形成、骨吸収、形態と種類 関節の構造と機能							○	◎																					
	合計	6																														
後期	10	3	第4章 診断・検査と治療、処置 保存療法（ギプス、包帯法、三角巾、装具）静脈血栓症予防							○	◎																					
	11 12 1																															
	2	1	期末考査																													
	合計	16																														
学習方法・その他																																
◎授業の受け方																																
・解剖生理学が基本となりますので、しっかり復習しておきましょう。																																
・疾患・検査・看護の学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。																																
・プリントにないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。																																
・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																
◎その他																																
・高校2・3年生の成人・老年看護学からつながる授業なので、今までの復習をしっかりと行って下さい。																																
・国家試験の出題基準に準じた授業を行います。																																

教科	看護	学年	専1	科目	老年看護学総論	単位数	1(15)	必修			
使用教科書	系統看護学講座専門Ⅱ 老年看護学										
使用副教材	なし										
科目の目標	(1) 老年期にある対象の特徴を知り、ライフステージとその健康課題を理解する。 (2) 高齢化に伴う医療・福祉・保健の問題に対する理解を深めることが出来る。 (3) 老化と変化に伴う健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割を理解することが出来る。										
評価の観点	【知識・技術】 老年期における個人差の特徴やQOLの重要性をふまえた看護の必要性を理解し、老年期に関する技術を身に付ける事が出来る。 【思考・判断・表現】 レポート課題などでわかりやすく、丁寧に対象を理解して書くことができているか。高齢に伴う変化を自分に置き換えながら理解を深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 高齢化に関する日本の現状について関心を持ち、地域の医療問題を考えながら学習に取り組むことができる。										
			5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)				
	①知識・技術	老年看護や老年期の特徴について授業内容を越えた自主的学習が認められる。	老年看護や老年期の特徴について授業内容をほぼ100%理解している。	老年看護や老年期の特徴について到達目標は理解しているが、授業内容に不足がある。	老年看護や老年期の特徴について到達目標に達していることが認められる。	老年看護や老年期の特徴について到達目標に達していない。					
	②思考・判断・表現	解決方法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	教科書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。					
	③主体的に学習に取り組む態度	自ら進んで予習範囲を超えて調べている。	予習範囲を十分に理解し、他人に説明できる。	指示した予習範囲の理解にあいまいな点がある。	指示された範囲は予習するが、理解が不十分である。	指示された範囲は予習が不十分である。					
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度などから総合的に評価する。定期考査、小テスト・提出物・授業態度などから総合的に評価する。										
年間学習計画									評価の観点		
学期	月	時数	単元・主な学習内容						①	②	③
前期	4	5	1 老年看護学概論・・・高齢社会の現状／老年看護の基本的目的・役割／老年期の特徴、 2 老年期の発達と老化・・・老年期の定義／発達課題／正常老化と病的老化 3 高齢に伴う身体的変化①・・・感覚機能・運動機能の高齢変化と看護上の留意点 4 高齢に伴う身体的変化②・・・循環・呼吸・消化器・泌尿機能の変化 5 心理・社会的側面・・・高齢者の心理／喪失体験／社会的役割の変化						○	◎	◎
	5										
	6	5	6 高齢者の生活機能・・・ADL、IADL、QOL／自立支援と安全確保 7 老年症候群・・・フレイル／サルコペニア／転倒・骨折予防 8 認知症の理解・・・認知症の定義、分類／中核症状／BPSD 9 認知症高齢者の看護・・・コミュニケーション／環境調整／尊厳の保持 10 急性期に見られる問題・・・せん妄／廃用症候群／入院による影響						○	◎	◎
	8	4	11 慢性疾患・薬物療法・・・多疾患併存／ポリマシー／服薬管理 12 在宅・地域包括ケア・・・自宅療養支援／地域包括ケアシステム 13 終末期、倫理・・・人生の最終段階の看護／意思決定支援（ACP）						○	◎	◎
	9	1	15	考査							
後期	10 11 12										
	1 2 3										
	合計	15									
	学習方法・その他										
◎授業の受け方											
・高齢者の理解に向けて、日頃から地域や家族を通し関心を持っていきましょう。 ・人生観や価値観と言った言葉を十分に理解し、個人差に応じた理解をしていきましょう。 ・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。											
◎その他											
・高校での老年看護学を更に深め、専攻科1年生の老人看護学各論につながるよう、しっかりとノートをとまとめましょう。											

教科	看護	学年	専1	科目	小児看護学総論	単位数	1(30)	必修		
使用教科書	系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論									
使用副教材	なし									
科目の目標	(1) 小児看護の対象や役割を理解することが出来る。 (2) 小児の成長・発達課題を理解し健康な生活を送るための必要な援助を学ぶことが出来る。									
評価の観点	【知識・技術】 小児の特徴及び成長・発達に応じた援助の必要性を理解し、小児の特徴や成長・発達に関連する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 子どもの特徴を具体的に各期に応じて課題などでわかりやすく、丁寧書くことができています。成人との違いをふまえ、環境や家族による影響を理解できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもを取りまく環境と社会の変化に関心を持ち、問題意識を持ちながら学習に取り組むことができる。									
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度などから総合的に評価する。									
年間学習計画										
学期	月	時数	単元・主な学習内容					評価の観点		
前期	4～6	15	第1章 病気・障害を持つ子どもと家族の看護					①	②	③
			○病気・障害が子どもと家族に与える影響					◎	○	○
			○子どもの健康問題と看護					◎	○	○
			第2章 子どもの状況に特徴づけられる看護							
			○入院中、外来、在宅療養、災害時の子どもと家族の看護					◎	○	○
			第3章 子どもにおける疾病の経過と看護							
			○慢性期、急性期、周手術期、終末期にある子どもと家族の看護					◎	○	○
			第4章 子どものアセスメント							
	○アセスメントに必要な技術					◎	○	○		
	・コミュニケーション、バイタルサイン測定、身体測定									
第5章 症状を示す子どもの看護										
○症状を示す子どもへの看護各論					◎	○	○			
・痛み、発熱、脱水										
○考査					◎					
後期	10～12	4	第6章 検査・処置を受ける子どもの看護					◎	◎	○
			○検査・処置総論							
			○検査・処置各論							
			・与薬、輸液管理、採尿、骨髄・腰椎穿刺、救急救命							
	第7章 子どもの事故・外傷と看護									
	・不慮の事故、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症					○	○	◎		
1～3	9	第8章 障害のある子どもと家族の看護					○	○	◎	
		第9章 子どもの虐待と看護					○	○	◎	
		○後期期末考査					◎			
合計	30									
学習方法・その他										
◎授業の受け方 ・保育所実習で使用した事前学習や体験を思い出しながら、小児と健康と比較しながら学習していきましょう。 ・社会の変化や環境との関係も大きいので、社会状況への関心を持って授業に臨みましょう。 ・小児臨床看護総論は小児看護学総論の内容をふまえて取り組んでください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。										
◎その他 ・高校での学習を基盤に、さらに専門的な看護について学習を深めます。予習復習をしっかりとやりましょう。										

教科	看護	学年	専 1	科目	小児看護学各論	単位数	2 (60)	必修																								
使用教科書	医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論																															
使用副教材	なし																															
科目の目標	成長・発達の過程にある小児の特質を理解した上で、小児各期の健康課題と看護及び診療時の看護に関する知識と技術を実践的・体験的な学習活動を通して習得するとともに、習得した知識と技術を適切に活用し、保健医療福祉チームの一員として連携・協働して取り組むことができる。																															
評価の観点	【 知 識 ・ 技 術 】 診療を受ける小児の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 】 診療を受ける小児の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫。小児の主体的な治療参加の支援。疾病・治療の影響を最小限に抑えて成長・発達を促す援助ができる。</td><td>小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫。小児の主体的な治療参加の支援を行い、成長・発達を促す援助ができる。</td><td>小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫。小児の主体的な治療参加の支援を行う事ができる。</td><td>小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫ができる。</td><td>授業に参加しない/課題提出しない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>診療を受ける小児の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて児の発達段階に応じた具体的な解決策を見いだすことができる。</td><td>診療を受ける小児の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。</td><td>診療を受ける小児の看護について、倫理観を踏まえて解決策を考えることができる。</td><td>診療を受ける小児の看護について考えることができる。</td><td>授業に参加しない/課題提出しない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指して主体的かつ協働的に取り組むことができる。</td><td>診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的に取り組むことができる。</td><td>診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的に取り組むことができる。</td><td>診療を受ける小児の看護について自ら学ぶことができる。</td><td>授業に参加しない/課題提出しない</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫。小児の主体的な治療参加の支援。疾病・治療の影響を最小限に抑えて成長・発達を促す援助ができる。	小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫。小児の主体的な治療参加の支援を行い、成長・発達を促す援助ができる。	小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫。小児の主体的な治療参加の支援を行う事ができる。	小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫ができる。	授業に参加しない/課題提出しない	②思考・判断・表現	診療を受ける小児の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて児の発達段階に応じた具体的な解決策を見いだすことができる。	診療を受ける小児の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	診療を受ける小児の看護について、倫理観を踏まえて解決策を考えることができる。	診療を受ける小児の看護について考えることができる。	授業に参加しない/課題提出しない	③主体的に学習に取り組む態度	診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指して主体的かつ協働的に取り組むことができる。	診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的に取り組むことができる。	診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的に取り組むことができる。	診療を受ける小児の看護について自ら学ぶことができる。	授業に参加しない/課題提出しない
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫。小児の主体的な治療参加の支援。疾病・治療の影響を最小限に抑えて成長・発達を促す援助ができる。	小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫。小児の主体的な治療参加の支援を行い、成長・発達を促す援助ができる。	小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫。小児の主体的な治療参加の支援を行う事ができる。	小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫ができる。	授業に参加しない/課題提出しない																											
②思考・判断・表現	診療を受ける小児の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて児の発達段階に応じた具体的な解決策を見いだすことができる。	診療を受ける小児の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。	診療を受ける小児の看護について、倫理観を踏まえて解決策を考えることができる。	診療を受ける小児の看護について考えることができる。	授業に参加しない/課題提出しない																											
③主体的に学習に取り組む態度	診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進または穏やかな最期を目指して主体的かつ協働的に取り組むことができる。	診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的に取り組むことができる。	診療を受ける小児の看護について自ら学び、小児の安全・安楽を守り、回復の促進を目指して主体的に取り組むことができる。	診療を受ける小児の看護について自ら学ぶことができる。	授業に参加しない/課題提出しない																											
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度などから総合的に評価する。																															
年間学習計画						評価の観点																										
学期	月	時数	単元・主な学習内容			①	②	③																								
前期	4	2	染色体異常と先天異常と看護			◎	○	○																								
	5～9	20	○ 医師講義 小児の主な疾患、臨床における治療、検査			◎		◎																								
	5～6	4	代謝性疾患と看護（特にⅠ型糖尿病）			○	○	◎																								
	7	4	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護（特に喘息）			○	○	◎																								
	8																															
後期	9	7	感染症と看護（麻疹・風疹・水痘・ムンプスウィルス・髄膜炎）			○	◎	◎																								
		1	前期期末考査			◎																										
	10	6	循環器疾患と看護（ファロー四徴症・川崎病）			◎																										
	11	2	消化器疾患と看護（鎖肛・肥厚性幽門狭窄症・胆道閉鎖症）			◎	○	○																								
	12	4	悪性新生物と看護（白血病）			○	◎	◎																								
	合計	1																														
		2	3	腎泌尿器及び生殖器官疾患と看護（ネフローゼ症候群）			○	○	○																							
3		6	事例を用いた看護過程の展開			◎		◎																								
学習方法・その他																																
◎授業の受け方																																
・身体系統別または病態別に整理しながら学習していますので、成人との違いもふまえながら学習していきましょう。																																
・小児の身体的・精神的特徴をふまえながら、必要な看護野技術を理解していきましょう。																																
・小児臨床看護総論や小児看護学総論の内容をふまえて取り組んでください。																																
・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																
◎その他																																
・主な疾患や治療は医師講師による授業となりますので、新しい技術や知識を学習する場面となります。																																
わからないところは積極的に質問しましょう。																																

教科	看護	学年	専 1	科目	母性看護学総論	単位数	1 (30)	必修		
使用教科書	系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学概論									
使用副教材	なし									
科目の目標	(1) 女性の各ライフサイクルの身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し、各期の看護問題および看護について理解を深める。									
	(2) 母性の発達・成熟・継承を理解し、母性およびその家族への看護の必要性がわかる。									
	(3) リプロダクティブヘルスにおける健康問題について、その現状および看護職者としての対応について理解を深める。									
評価の観点	【知識・技術】	リプロダクティブヘルスの考え方を踏まえ、女性の各ライフスタイルの特徴と共に母性を理解し、発達・成熟に応じた援助の必要性を理解できる。								
	【思考・判断・表現】	リプロダクティブヘルスによる健康問題や女性の各ライフスタイルや母性に関する課題を発見し、倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決策を見いだしている。								
	【主体的に学習に取り組む態度】 各期の看護問題について自ら学び、女性における健康の保持増進を目指し主体的かつ協働的に取り組もうとしている。									
評価の算出	①知識・技術	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)				
	②思考・判断・表現	リプロダクティブや女性のライフサイクル及び母性の特徴について授業内容を越えた自主的学習が認められる。	リプロダクティブや女性のライフサイクル及び母性の特徴について授業内容を理解している。	リプロダクティブや女性のライフサイクル及び母性の特徴について到達目標は理解しているが、授業内容に不足がある。	リプロダクティブや女性のライフサイクル及び母性の特徴について到達目標に達していることが認められる。	リプロダクティブや女性のライフサイクル及び母性の特徴について到達目標に達していない。				
	③主体的に学習に取り組む態度	母性看護の特徴を踏まえ、事例や課題について根拠をもとに多面的に考え、自分の考えを他者にわかるように説明できる。	事例や課題について考えているが、根拠や理由の説明が不十分な部分がある。	事例や課題について考えているが、根拠や理由の説明が不十分な部分がある。	事例や課題について考えているが、根拠があいまいで、説明が難しい。	事例や課題について、自分の考えを示すことが難しい。				
		自ら進んで予習範囲を超えて調べている。	予習範囲を十分に理解し、他人に説明できる。	指示した予習範囲の理解にあいまいな点がある。	指示された範囲は予習するが、理解が不十分である。	指示された範囲は予習が不十分である。				
定期考査：8割 (①②③)										
小テスト・提出物・授業参加：2割 (①②③)										
年間学習計画								評価の観点		
学期	月	時数	単元・主な学習内容					①	②	③
前期	4～6	5	1. 母性の概念（妊娠～育児：心身・社会的変化）					◎	◎	○
			2. 母性の特性（生命の継続性・家族性・社会性・時間とともに変化する特性）					◎	◎	○
			3. 母性看護の対象・目的・役割 ・母子の健康保持・増進、看護師の役割					◎	◎	○
			4. 母性看護における家族の位置づけ ・子どもは家族の中で育つ存在 ・家族がもつ基本的な機能の理解					◎	◎	○
	7～8	4 1 5 1	5. 母性看護における安全・安心 1. 女性のライフサイクルの考え方					◎	◎	○
			・ライフサイクルの概念、女性の一生を通した健康の考え方					◎	◎	○
			2. 各ライフサイクルにおける健康課題 ・思春期の心身の変化と健康課題 ・性成熟期の健康課題 ・更年期の心身の変化と健康課題					◎	◎	○
			考査					◎	◎	○
後期	8～3	13	3. ライフサイクルにおける家族の関わり ・各期における家族の役割の変化 ・家族の基本的な機能 ・子どもは家族の中で育つ存在 4. 各期に共通する看護の視点 ・不安や揺れへの配慮、自己決定の尊重 1. リプロダクティブヘルス/ライツの概念 2. 女性の自己決定と倫理 3. 母性を支える法律と社会の仕組み 4. 法整備・ジェンダーを踏まえた看護師の役割 5. 母性看護における看護過程の考え方					◎	◎	○
			考査							
			考査							
			合計					30		
学習方法・その他										
◎授業の受け方										
・3年次の学習をさらに深め母性の特性、看護の概念を広い視野から捉え、看護師の役割について学習します。今までの学習を復習してから授業に望みましょう。 ・教科書は何が書かれているか各自読み、予習復習をしておきましょう。 ・授業中は集中してしっかり取り組み、欠席しないようにしましょう。										
◎その他										
・教科書を使用しながら、国家試験の出題基準に準じて授業を展開します										

教科	看護	学年	専攻	科目	母性看護学各論	単位数	2(60)	必修			
使用教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論										
使用副教材											
科目の目標	(1) 周産期にある妊娠、出産、産褥及び新生児の正常と異常が理解できる。 (2) 妊娠、出産、産褥を通して母子の健康を維持・促進するための看護が理解できる。 (3) 新生児の特徴を理解し、必要な看護を理解することが出来る。										
評価の観点	【知識・技術】 周産期・新生児の特徴や自己の母性形成に必要な援助を理解し、周産期や新生児・母性の形成に関する技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 周産期・新生児の特徴に関わる多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度 周産期・新生児の特徴と看護について自ら学び、健康の保持増進を目指して、主体的かつ協動的に取り組むことができる。										
		5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)					
	①知識・技術	周産期・新生児の特徴と看護の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る。	周産期・新生児の特徴と看護の適切な理解にはやや不足あるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る。	周産期・新生児の特徴と看護の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る。	周産期・新生児の特徴と看護について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことが出来る。	周産期・新生児の特徴と看護について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない。					
	②思考・判断・表現	周産期・新生児の特徴に関わる多様な課題を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる。	周産期・新生児の特徴に関わる多様な課題を見出し、援助について発表することができる。	周産期・新生児の特徴に関わる多様な課題を見出し、援助の一部について発表することができる。	周産期・新生児の特徴に関わる多様な課題を見出すことにやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる。	周産期・新生児の特徴に関わる多様な課題を見出すことに不足あり、援助について発表することができない。					
	③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習を行い、周産期・新生児の健康の保持増進を目指し、主体的かつ協動的に取り組むことが出来る。	復習を行い、周産期・新生児の健康の保持増進を目指し、協動的に取り組むことが出来る。	復習を行い、周産期・新生児の健康の保持増進を目指し、取り組むことが出来る。	周産期・新生児の健康の保持増進を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことが出来る。	周産期・新生児の健康の保持増進を目指すことこの視点に不足もあり、取り組みもできない。					
評価の算出											
年間学習計画									評価の観点		
学期	月	時数	単元・主な学習内容						①	②	③
前期	4	18	○医師講義 第2章 出生前からのリスクマネジメントヘルスケア～第7章 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 ・ハイリスク妊娠～ハイリスクとは、糖尿病合併妊娠・感染症・血液型不適合妊娠・分娩時異常出血・常位胎盤早期剥離 ・前置胎盤・妊娠高血圧症候群帝王切開・低出生体重児・高ビリルビン血症・不妊症・不育症 <女性生殖器> 第3章 症状とその病態生理 ～ 第5章 疾患の理解						◎	◎	○
	5		◎	◎	○						
	6		◎	◎	○						
	7	10	・【演習2時間】妊娠期事例を用い、生活背景と気になる点を整理し必要な関わりを考える						◎	◎	◎
	8		○分娩期における看護						◎	◎	○
	9		・分娩の経過と母体の変化 ・分娩期における不安と安心への支援 前期期末考査						◎	◎	○
後期	10	14	○産褥期における看護 ・産褥期の身体回復と心理的特徴 ・母性役割の形成 ・退院後を見据えた看護						◎	◎	○
	11		・【演習2時間】産褥期事例から回復状況と生活支援を考える						◎	◎	◎
	12		○新生児期における看護 ・正常新生児の特徴と生活						◎	◎	○
	1	6	・新生児の観察の視点						◎	◎	○
	2		・家族への支援						◎	◎	○
	2	2	・【演習2時間】新生児事例を通して観察の意味と家族支援を考える						◎	◎	◎
	3		後期期末考査								
	合計	60									
学習方法・その他											
◎授業の受け方 ・覚えなければならない用語や身につけなければならない技術があります。事前・事後の学習を行い自ら主体的に学ぶ努力をしましょう。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。											
◎その他 ・国家試験の出題基準に準じた授業を行います。											

教科	看護	学年	専1	科目	精神看護学総論	単位数	2(45)	必修
使用教科書	メチカルフレンド社 新体系看護学32 精神看護学1 精神看護概論・精神保健							
使用副教材	なし							
科目の目標	精神の健康と障害について、精神医療の歴史及び精神保健医療福祉の変遷も踏まえて理解した上で、精神症状や精神に障害等がある人の権利擁護に努めるとともに、日常生活の困難さの軽減や自立した生活を送るための支援に関わる知識と技術を習得し、課題を見いだし、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。							
評価の観点	【知識・技術】	精神に障害等がある人と家族の苦悩について、具体的な事例を通して学習することによって、共感的に理解するとともに、精神障害の予防や早期回復、セルフケア、社会復帰等に関する知識と技術を身に付ける事が出来る。						
	【思考・判断・表現】	精神に障害等がある人の具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ、人権の擁護や地域生活支援の制度の活用と生活の自立、セルフケアを目指す視点から考察するとともに、実施する援助の根拠を明確にして課題を解決する力を養うことが出来る。						
	【主体的に学習に取り組む態度】	精神に障害等がある人の健康課題の解決に当たっては、社会生活への参加と自立、生活の質の向上を目指し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を養うことが出来る。						
		</						

[illegible]

教科	看護	学年	専1	科目	看護の統合と実践(災害看護)		単位数	1(15)	必修
使用教科書	医学書院	災害看護学・国際看護学		看護の統合と実践					
使用副教材	なし								
科目の目標	災害における人的被害を最小にするため、災害の種類とその特徴の理解を踏まえた災害各期の基本的な看護の知識と技術について、実践的・体験的な学習活動を通して習得するとともに、習得した知識と技術を適切に活用できるようにする								
評価の観点	【知識・技術】 看護活動を行う組織の一員として、災害看護の基本を身近な問題と関連付けて知識と技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 看護を実践する場合の多様な課題について、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、多様な価値観の尊重等を踏まえて解決する力を見出している。 【主体的に学習に取り組む態度】 看護職が果たすべき役割を踏まえ、人々の健康の保持増進を目指して、多職種と連携・協働し、主体的に取り組もうとしている。								

教科	看護	学年	専 1	科目	看護臨床実習(老年看護学実習)			単位数	2(90)	必修																														
使用教科書	なし																																							
使用副教材	なし																																							
科目の目標	(1) 老年期にある対象の身体的・心理的・社会的側面と生活史や老いの現れ方、及び健康の段階から、対象を総合的に理解する能力を習得することが出来る。 (2) 疾病あるいは健康障害により生活機能が低下した対象の残存機能を把握し、それを最大限活用出来るような看護を計画、実践、評価する知識、技術、態度を習得ことができる。																																							
評価の観点	【知識・技術】 老年看護領域における看護実践と理論を結び付けて理解すると共に、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 老年看護領域における看護実践について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 老年看護領域における看護実践について自ら学び、人々の健康を保持増進するために主体的かつ協働的に取り組むことができる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td></td><td></td><td>履修目標</td><td></td><td>到達目標</td><td></td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を患者の反応に応じて安全・安楽に提供できる</td><td>老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を安全・安楽に提供できる</td><td>老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した援助計画を作成し、看護技術を実施できる</td><td>老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解について不十分なところがあるが、援助計画を作成し、看護技術を実施できる</td><td>老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解不足により、看護技術が実施できない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>老年期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画が的確に立案でき、個別性のある援助を提供できる。また、指導を対象者の理解度を確認しながら行うことができる</td><td>老年期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画を立案し、個別性のある援助を提供できる。また、必要時患者指導を実践できる</td><td>老年期にある対象者の全体像から問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる</td><td>老年期にある対象者の全体像の理解に不足はあるが問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる</td><td>老年期にある対象者の全体像を捉えられず、問題点を出すことができず、看護計画の立案、援助の実施ができない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>実習記録物を適切かつ確実に記録し時間を厳守でき、必要な報告・連絡・相談ができるとともに自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる</td><td>実習記録物を的確さには指導が必要であるが適切に記録し時間内に提出、報告・連絡・相談もでき、自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる</td><td>実習記録物を記録し時間内に提出でき、報告・連絡・相談も必要時で、自己の健康管理も留意し欠席においても事前相談でき、守秘義務の厳守や関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる</td><td>実習記録物の記録内容が不十分であり、提出時間も遅れることがあり、報告・連絡・相談、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度に不十分さがみられる</td><td>実習記録物を記録できず、提出できないことや報告・連絡・相談ができず、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度が不足している</td></tr></table>											5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)			履修目標		到達目標		①知識・技術	老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を患者の反応に応じて安全・安楽に提供できる	老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を安全・安楽に提供できる	老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した援助計画を作成し、看護技術を実施できる	老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解について不十分なところがあるが、援助計画を作成し、看護技術を実施できる	老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解不足により、看護技術が実施できない	②思考・判断・表現	老年期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画が的確に立案でき、個別性のある援助を提供できる。また、指導を対象者の理解度を確認しながら行うことができる	老年期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画を立案し、個別性のある援助を提供できる。また、必要時患者指導を実践できる	老年期にある対象者の全体像から問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる	老年期にある対象者の全体像の理解に不足はあるが問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる	老年期にある対象者の全体像を捉えられず、問題点を出すことができず、看護計画の立案、援助の実施ができない	③主体的に学習に取り組む態度	実習記録物を適切かつ確実に記録し時間を厳守でき、必要な報告・連絡・相談ができるとともに自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物を的確さには指導が必要であるが適切に記録し時間内に提出、報告・連絡・相談もでき、自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物を記録し時間内に提出でき、報告・連絡・相談も必要時で、自己の健康管理も留意し欠席においても事前相談でき、守秘義務の厳守や関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物の記録内容が不十分であり、提出時間も遅れることがあり、報告・連絡・相談、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度に不十分さがみられる	実習記録物を記録できず、提出できないことや報告・連絡・相談ができず、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度が不足している
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																																			
		履修目標		到達目標																																				
①知識・技術	老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を患者の反応に応じて安全・安楽に提供できる	老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を安全・安楽に提供できる	老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した援助計画を作成し、看護技術を実施できる	老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解について不十分なところがあるが、援助計画を作成し、看護技術を実施できる	老年期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解不足により、看護技術が実施できない																																			
②思考・判断・表現	老年期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画が的確に立案でき、個別性のある援助を提供できる。また、指導を対象者の理解度を確認しながら行うことができる	老年期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画を立案し、個別性のある援助を提供できる。また、必要時患者指導を実践できる	老年期にある対象者の全体像から問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる	老年期にある対象者の全体像の理解に不足はあるが問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる	老年期にある対象者の全体像を捉えられず、問題点を出すことができず、看護計画の立案、援助の実施ができない																																			
③主体的に学習に取り組む態度	実習記録物を適切かつ確実に記録し時間を厳守でき、必要な報告・連絡・相談ができるとともに自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物を的確さには指導が必要であるが適切に記録し時間内に提出、報告・連絡・相談もでき、自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物を記録し時間内に提出でき、報告・連絡・相談も必要時で、自己の健康管理も留意し欠席においても事前相談でき、守秘義務の厳守や関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物の記録内容が不十分であり、提出時間も遅れることがあり、報告・連絡・相談、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度に不十分さがみられる	実習記録物を記録できず、提出できないことや報告・連絡・相談ができず、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度が不足している																																			
評価の算出	提出物、実習態度・看護過程の展開状況などにより評価する。																																							
年間学習計画										評価の観点																														
学期	月	時数	単元・主な学習内容							①	②	③																												
前期	4																																							
	5																																							
	6																																							
	7																																							
	8																																							
後期	9																																							
	10																																							
	11																																							
	12		○事前学習の確認、実技練習、実習オリエンテーション ・事前学習の確認・指導、実技練習指導							◎	◎	◎																												
	1		・実習オリエンテーション																																					
	2		○老年看護学実習（1月下旬～2月上旬）							◎	◎	◎																												
	3		・老年看護学実習 2週間（看護過程の展開）																																					
	合計	90																																						
学習方法・その他																																								
◎授業の受け方																																								
・実習の目標と自己目標をしっかりと踏まえて臨みましょう。 ・事前学習や疾患学習及び技術練習は計画的に取り組んで行きましょう。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																								
◎その他																																								
・グループでの協力が大事になりますので、お互いメンバーへの関心を持つようにしましょう。 ・学生らしい態度と謙虚な姿勢を忘れず、積極的に行動しましょう。 ・来年は専門職者として社会人になることをしっかりと認識して行動しましょう。																																								

様式第2号（その3）

授業科目名	自然科学	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	1 (15)
-------	------	-----	----	------	-----	-------------	--------

学習目標	目的 人間と自然現象との関係を学び、看護における実践の場面での裏付けの理解に役立ちます。 目標 1 生命体に共通する構造や機能などの基本を学び、人間の生命現象を理解し、生命の尊厳を守ることの価値を高める事ができる。 2 自然現象の基礎理論を理解し、人間の動作や科学的知識を習得する事ができる。 3 自然の中で起きている化学反応について理解を深め、生命現象および医療、看護に用いられる有機化学反応についての基礎知識を習得する。 内容 <table> <tr> <td>細胞の構造と機能</td><td>動物の生理</td></tr> <tr> <td>生殖、発生、分化、加齢</td><td>生物と環境</td></tr> <tr> <td>遺伝情報の構造と機能</td><td>地球環境とヒトの未来</td></tr> <tr> <td>個体の調整</td><td></td></tr> <tr> <td>刺激の受容と行動</td><td></td></tr> </table>	細胞の構造と機能	動物の生理	生殖、発生、分化、加齢	生物と環境	遺伝情報の構造と機能	地球環境とヒトの未来	個体の調整		刺激の受容と行動	
細胞の構造と機能	動物の生理										
生殖、発生、分化、加齢	生物と環境										
遺伝情報の構造と機能	地球環境とヒトの未来										
個体の調整											
刺激の受容と行動											
授業形式	講義										
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価										
教科書・参考書	なし										
その他											

様式第2号（その3）

授業科目名	心理学	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	1 (30)
-------	-----	-----	----	------	-----	-------------	--------

学習目標	目的 人間の行動の特性、個人の成長発達過程における心理的变化、ライフイベントなど生活環境の変化や疾病や健康障害など体内環境の変化がもたらす心理的变化を学び、これを基礎として臨床心理学および主なカウンセリングの理論、心理学の理論を医療安全にどのように適応するかを具体的に学ぶ。 目標 1 人間の心理や行動の基礎である原理を学ぶことができる。 2 自己および対象を客観的に理解するための基礎的知識を学ぶ事ができる。 3 看護の対象である人間を理解するための基礎知識を身に付けることができる。 内容 人間の心理を理解する（学習・記憶・感情・動機・性格・知能の心理 発達の心理・社会集団の心理） 健康の心理と人間理解 臨床心理学の基礎と心理アセスメント カウンセリングと心理療法 行動する人間の理解
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	看護学生のための心理学 医学書院
その他	カウンセリング、細菌の心理療法の実際を学びます。 視覚教材も使用します。

様式第2号（その3）

授業科目名	栄養学	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	2 (30)
-------	-----	-----	----	------	-----	-------------	--------

学習目標	目的 生化学を含め、健康維持と栄養の関係、治療としての栄養について学ぶ。 目標 1 人間にとっての栄養の意識を認識することができる。 2 生命維持に必要な栄養素の物質代謝の知識を身に付けることができる。 3 食事療法の基本を理解する。 内容 第2章 栄養の消化と吸収 第3章 呼吸と血液のはたらき 第4章 血液の循環とその調節 第5章 体液の調節と尿の生成 第6章 内蔵機能の調節
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野3 栄養学 医学書院
その他	

授業科目名	病理学Ⅰ	担当者	講師	履修学年	専1	単位数 (時間)	1 (30)
-------	------	-----	----	------	----	-------------	--------

学習目標	目的 病因と病変の特徴とする総論の理解を深め、各疾患の病態生理・治療・検査について総合的に理解する。 目標 1 病因と病変の特徴を学ぶことができる。 2 各疾患の病態生理を学ぶことができる。 3 疾病に対する治療・検査について理解する。 内容 疾病の誘因 細胞・組織とその障害 再生と修復、代謝異常 免疫とアレルギー、炎症、老化 各領域の疾患
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	カラーで学べる病理学 ヌーヴェルヒロカワ
その他	

授業科目名	病理学Ⅱ	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	2 (60)
-------	------	-----	----	------	-----	-------------	--------

学習目標	目的 総論の理解を深め、各疾患の病態生理・治療・検査について、総合的に理解する。 目標 1 各領域の疾患特性、病態生理について学ぶことができる。 2 各疾患の診断法、治療法を学ぶことができる。 3 疾病に対する治療・検査について理解する事ができる。 内容 腎泌尿器の疾患 整形外科の疾患 皮膚野疾患 眼の疾患 耳鼻咽喉科野疾患 歯の疾患 外科疾患
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	系統看護学講座 成人看護学7、12～15 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	微生物学	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	1 (30)
-------	------	-----	----	------	-----	-------------	--------

学習目標	目的 人間をとりまく生物学的環境と健康の関係、生物学的環境のコントロール技術としての消毒、それに因する疾病について学ぶ事ができる。 目標 1 微生物の特徴を学ぶことができる。 2 微生物と健康の関係を学ぶことができる。 3 微生物に因する疾病への対応を学ぶことができる。 内容 微生物学と院内感染 感染と免疫 細菌・ウィルス・真菌・寄生虫
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	看護微生物学 医歯薬出版株式会社
その他	

授業科目名	薬理学	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	1 (30)
-------	-----	-----	----	------	-----	-------------	--------

学習目標	目的 薬の代謝、体内動態についての基礎知識をもとに、治療薬の分類と特徴を知り、薬の最終提供者として安全な与薬ができる能力を養う。 目標 1 薬物の特徴、作用機序について理解する事ができる。 2 薬物のもたらす人体への影響を理解する事ができる。 3 薬物管理について理解することができる。 内容 薬理作用と作用機序、副作用と有害作用 妊婦・小児・高齢者の薬物療法 薬物の管理 治療薬
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	系統看護学講座専門基礎5 疾病の成り立ちと回復の促進3 薬理学 医学書院
その他	

授業科目名	社会福祉	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	2 (30)
-------	------	-----	----	------	-----	-------------	--------

学習目標	目的 人々の健康を支えている医療と保健・福祉の相互に連携、保健医療福祉行政と社会保障制度の仕組みと役割及び健康をめぐる相互の連携や協働について学ぶ。 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間について学ぶ事ができる。 2 社会保障の理念と基本的な制度の考え方を理解する事ができる。 3 生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題を理解する事ができる。 内容 今後の日本の課題 暮らしと社会保障・社会福祉 社会保障の仕組みと社会資源 地域福祉の推進 保健・医療と福祉の連携 生活保護 公的扶助制度 社会保障制度
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障
その他	

授業科目名	老年看護学 各論	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	1 (30)
-------	-------------	-----	----	------	-----	-------------	--------

学習目標	目的 高齢者に特有な症候・疾患・障害について学ぶ。 高齢者に関連する疾患を学ぶ。 目標 1 加齢現象や高齢者特有の症候・疾患によっておこる機能障害の特徴を学ぶことができる。 2 高齢者の健康障害に対する診断と治療過程を学ぶことができる。 3 高齢者に関連しやすい基本的な疾患を理解できる。 内容 高齢者に特有の疾患（認知症、肺炎、褥瘡認知症、 廃用症候群、ロコモティブシンドローム、せん妄、 精神神経疾患《脳血管疾患・パーキンソン病》） 循環器・消化器・呼吸器・脳神経・血液・アレルギー・内分泌疾患
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	系統看護学講座21 老年看護学 病態・疾患論 医学書院 循環器、呼吸器、内分泌代謝、脳神経、アレルギー膠原病、消化器 医学書院
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	統計学	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	1 (20)
-------	-----	-----	----	------	-----	-------------	--------

学習目標		目的 地域や集団を対象とした健康問題の解決に向けた統計学の知識を学び、看護に関係する数値やデータの必要性や根拠を基に考えることの意味を知る。また、導き出すための基礎的な計算を学ぶ。 目標 1 統計学の目的や意味、看護に関する必要性を知ることができる。 2 看護の中で使われる計算の基本や応用が理解できる。 内容 ・統計学とは何か、看護と統計の関係・必要性、偏差値について ・データやグラフの見方（主な保健統計の見方・捉え方） ・看護に関する基本的な計算問題 点滴の計算、薬液の計算（濃度・希釈）、酸素ボンベ、栄養摂取量、エネルギー計算
授業形式		講義
評価方法		授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
参考書		やさしい統計学（桐書房）、看護計算ドリル（照林社）など
その他		

授業科目名	精神各論	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	1 (20)
-------	------	-----	----	------	-----	-------------	--------

学習目標	目的 精神の健康と障害について、精神医療の歴史及び精神保健医療福祉の変遷も踏まえて理解した上で、精神症状や精神に障害等がある人の権利擁護に努めるとともに、日常生活の困難さの軽減や自立した生活を送るための支援に関わる知識と技術を習得し、課題を見だし、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 目標 1 精神症状にはどのようなものがあるのか理解する 2 疾患概念・定義、病因、症状、状態、治療、支援を理解する 3 精神科診療や診断のプロセスを理解する 4 精神疾患・障害の診断基準と分類を理解する。 内容 専門分野（精神看護学） 第2章 精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査 第3章 主な精神疾患／障害 第4章 精神疾患の主な治療法 症例をまじえて、症状と治療について
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	メヂカルフレンド社 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	体育	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	1 単位（25）
-------	----	-----	----	------	-----	-------------	----------

学習目標	目的：体力の向上と健全な心身を培い、より良い人格の形成を図る。 目標：1、身体運動、健康の意義・目的とその役割について学ぶ。 2、人格形成としての体力向上や健康の維持、安全の確保について学ぶ。 内容：1、身体運動、健康の意義・目的 2、体づくりの運動 3、競技スポーツの実践 4、運動を通してのチームや自己課題の発見と解決への取り組み
授業形式	実技
評価方法	授業中の態度・チームとの協力・積極性・出欠状態などから評価
教科書・参考書	
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	社会学	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	2単位（30）
-------	-----	-----	----	------	-----	-------------	---------

学習目標	目的：人々の健康を支えている医療と保健・福祉の相互に連携、保健医療福祉行政と社会保障制度の仕組みと役割及び健康をめぐる相互の連携や協働について学ぶ。 目標：1、社会の概念を理解する。 2、社会の形成を基礎的要素が理解できる。 内容：1、人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間について学ぶ事ができる。 2、社会保障の理念と基本的な制度の考え方を理解する事ができる。 3、生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題を課題を理解する事ができる。
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・レポートの成績・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	英語	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	1 単位 (20)
-------	----	-----	----	------	-----	-------------	-----------

学習目標	目的：基礎的な英語力を学習し、日常生活に関する日常の英会話を習得し国際化社会に対応した能力を身に付ける。 目標：1 看護業務に関する基礎的な英文が理解できる。 2 看護師として患者に対する基礎的な会話ができる。 内容：1 初対面の対応 2 症状の聴取 3 患者のプロフィールの理解 4 病歴と生活習慣 5 病棟内のオリエンテーション
授業形式	講義・演習（リスニング・ロールプレイ）
評価方法	演習・小テストの成績・パフォーマンステスト・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	Nursing English in Action
その他	医療に関わる言葉や会話を学んでいきます。授業内での演習もありますので、積極的に英単語の発音等をしていきましょう。

授業科目名	生命倫理	担当者	講師	履修学年	専 1	単位数 (時間)	1 単位（15）
-------	------	-----	----	------	-----	-------------	----------

学習目標	目的：医療の発達や高齢社会・少子化などの急激な社会変化における人間としての倫理や価値観を理解し、保健・医療の現場で問われている今日的な課題を学ぶ。 目標：1、生命倫理の問題を通して、現実の社会のあり方について考えられる。 2、医療の変化や社会の変化に伴う健康の在り方について理解する。 3、現代医療を理解し、これからの保健・医療・福祉の在り方について学ぶ。 内容：1、医療と看護の原点（命・健康・病・癒し） 2、医療の歩みと医療観の変化 3、私たちの生活と健康 4、現代医療の課題と今後
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	総合医療論（医学書院）
その他	地域医療の現状も含めた学習を行います。視聴覚教材も活用していきます。